

JA全農 とくしま情報

地域の話や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2023
12月号
No.770



すだち大使が徳島県産レンコンとスダチをPR(第46回ふるさとカーニバル～阿波の狸まつり～)

マンスリーレポート 2

- ・「徳島県れんこんの日」セレモニー
- ・とくしま食育フェスタ
- ・JA秋のこども食育フェスタ
- ・第46回ふるさとカーニバル～阿波の狸まつり～
- ・「秋の阿波おどり」イベント出店
- ・山形空港発チャーター便の搭乗客に「徳島すだち」を配布
- ・35周年記念スタンプラリーin美波町
- ・大阪の南港市場で牛枝肉の研究会・共励会を開催
- ・とくしまブランドde簡単料理コンテスト2023
- ・JA・サセキ セールスキングコンテスト2023表彰式
- ・トラクタ作業機研修会開催
- ・JA徳島市で自動操舵システム実演会
- ・相生小学校でオモトの花育
- ・令和5年度土壌診断技術向上研修会
- ・ドローンを活用したブロッコリーの黒すす病防除試験
- ・令和5年度徳島県青伸会「若手研修会」
- ・JA板野郡土支所女性部へPR
- ・県下JAで展示会や農業祭など多彩に開催

旬の野菜でおうちごはん 13

- ・大根と生ハムのカルパッチョ

浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 14

- ・その㊤ ～JAの未来～

交通安全のお知らせ 14

- ・年末年始の交通安全県民運動

トピックス 15

- ・営農コラム

マンスリーレポート

～大阪市中央卸売市場で販売拡大へPR～

「徳島県れんこんの日」セレモニー

11月7日、徳島県蓮根消費拡大協議会（会長＝坂本雅彦 県本部長）と当県本部は、大阪市中央卸売市場の野菜売り場で、年末の需要期に向けての徳島県産レンコンの販売促進を目的に、恒例の市場セレモニーを実施しました。

平成24年（2012年）の「徳島県れんこんの日（11月8日）」制定から12回目となる記念日を前に、JA関係者、徳島県、当県本部職員、市場関係者、卸売業者約160人が参加しました。

セレモニーでは協議会を代表して坂本会長が「本県ではひとつひとつ手掘りで収穫し、丹精込めて上質なレンコンの出荷に取り組んでおりますが、昨今の生産経費の高騰、気象条件による収量の減少等により、厳しい生産環境を強いられています。市場関係者の皆様には、何卒本県産の売り場の確保と販売拡大にご協力賜りますようお願いいたします」とあいさつをおこないました。

続いて、同協議会の佐々木伸夫副会長（JA大津松茂組合長）が産地を代表して「産地一丸となり品質に十分注意し、高品質で安定した出荷に取り組んでまいりますので、少しでも農家所得が上がるように単価の底上げと、なお一層のお引き立てをよろしく申し上げます」と市場関係者へ販売への支援・協力を依頼しました。

その後、市場関係者や仲卸業者など約150人に、レンコングッズ（まな板、カトラリーセット、ピーラー、ハンドタオル）とレンコン1節を無料配布しました。また、初めての取り組みとして、神戸市のケンミン食品株式会社協力のもと、同社の人気商品である『たっぷり野菜を入れてつくるチャプチェ』を無料配布し、徳島県産レンコンをPRしました。

なお、ケンミン食品が運営している神戸市にあるレストラン『健民ダイニング』では、11月3日から28日までの期間、徳島県レンコンフェアを開催し、京阪神の消費者にも幅広くレンコンをPRし、消費拡大につなげました。

徳島県れんこんの日（11月8日）とは…

11月は徳島県産レンコンの出荷量が増えて品質が安定する時期であることと「いい（11）は（8）す＝良い蓮」の語呂合わせから、平成24年（2012年）に徳島県蓮根消費拡大協議会が制定した記念日です（一般社団法人日本記念日協会により認定）。



セレモニーの様子



レンコンなどの無料配布を行い県産レンコンをPR



坂本会長（左）と佐々木組合長がチャプチェをPR



配布されたレンコンやレンコングッズ

～人気料理研究家が徳島県産食材でレシピを紹介～

とくしま食育フェスタ

11月5日、徳島県は徳島市の徳島グランヴィリオホテルで、本県が誇る豊かな食材や魅力ある食文化を県内外に発信することを目的とした「とくしま食育フェスタ」を開催し、約300人が参加しました。

午前10時のオープンセレモニーでは、後藤田正純徳島県知事は「今回のとくしま食育フェスタが2025年に開催される『第20回食育推進全国大会』の本県への誘致・開催に繋がるよう期待しています」とあいさつを述べられました。

続いてステージ上では、県内3つの団体より食育と農業の繋がりや、子ども食堂、学校給食など食育に関する事例発表がおこなわれました。

また、各団体のブースでは「そば米雑炊・県産果実の試食」や「フレイルチェック」などがおこなわれ、来場者で賑わっていました。当県本部のブースでは、企画管理課の仁木智美専任課長が徳島県産米を使用した「デコ巻きずし体験」をおこない、参加した子どもたちに県産米の美味しさやみんなで一緒に調理することの楽しさを伝えました。

午後からは料理研究家のコウケンテツ氏を迎え「ごはんて育む家族のしあわせ」をテーマに、実体験からの楽しい講演や、徳島県産食材（スダチ、なると金時、レンコンなど）を使用したレシピが紹介されました。聴講していた参加者は「ファンなので実際にお話しを聞くことができ大変嬉しいです」と喜んでいました。最後はじゃんけん大会がおこなわれ、賞品として県産米「あきさかり」（当県本部提供）などをコウケンテツ氏が勝ち残った方々にプレゼントしました。



講演を行う料理研究家のコウケンテツ氏



「デコ巻きずし体験」を行う親子



上手にできたよ～♪

～親子で食の大切さを学ぼう！～

JA秋のこども食育フェスタ

11月18日、JAグループ徳島は徳島県JA会館で「JA秋のこども食育フェスタ」を開催し、約250人の親子連れが来場しました。

このイベントは、子どもたちが成長していく過程で食への関心や興味を高揚させ、食の大切さ、食を支える農の役割などに対する理解の促進を図ることを目的としています。

来場者は、午前10時のオープンと同時に県産野菜で作った「そば米雑炊」を堪能したり、「やさい〇×クイズ」や「お米のグラム当てゲーム」に列をつくるなど、会場はたいへん賑わっていました。

当県本部のブースでは、企画管理課の職員が「1日分の野菜摂取目標！350gぴったり当てクイズ」と徳島県産米を使用した「デコ巻きずし体験」をおこない、職員は子どもたちに県産農産物の美味しさやバランスの良い食事の大切さ、みんなで調理し食べることの楽しさを伝えました。

午後からは別館2階大ホールで、徳島市の関山米穀店・関山隆大代表による「たかが米、されど米！徳島県産米を語ろう」と題した米に関する講演がおこなわれました。徳島県産米4種類「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「あわみのり」「あきさかり」の食べ比べもあり、関山代表は参加した親子に、それぞれの米の特徴を教えたり、「米はなぜ粘り気があるのか」「全国で何種類ぐらいの米があるのか」といった子どもたちからの質問に丁寧に答えていました。

当県本部では、今後もこうした子どもたちへの食育イベントを継続しておこなってまいります。



デコ巻きずし体験



1日分の野菜摂取目標！350gぴったり当てクイズ

マンスリーレポート

～JRT四国放送「板東男節スペシャル」でレンコンとスダチをPR～

第46回ふるさとカーニバル ～阿波の狸まつり～

11月4日と5日の2日間、徳島県蓮根消費拡大協議会と徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会は、徳島市の藍場浜公園で開催された、第46回ふるさとカーニバル～阿波の狸まつり～四国放送ラジオ「板東男節スペシャル」(毎週日曜日11:00～正午放送)で徳島県産レンコンとスダチのPRをおこないました。

公開放送では、四国放送アナウンサーの佐藤句子さん、シンガーソングライターの板東道夫さん、すだち大使の平石静香さん、桧妃菜さん、中川かりんさんが来場者やリスナーにレンコンとスダチの美味しい食べ方などを説明しました。また、板東さんとリスナーが作ったレンコンの歌も披露され、会場は大変盛り上がりしました。



すだち大使が徳島県産レンコンとスダチをPR♪



全農とくしまのブースでグッズなどを手渡すすだち大使

～徳島県産青果物や飲料をPR～

「秋の阿波おどり」イベント出店

11月3日と4日の2日間、当県本部園芸部は、徳島市のアスティとくしま(徳島県立産業観光交流センター)で開催された「秋の阿波おどり」(主催=徳島県、一般財団法人徳島県観光協会)にブース出店し、徳島県産青果物や飲料の販売をおこないました。

このイベントは、平成20年(2008年)から毎年秋に開催しており、今年は阿波おどりの演舞や人気お笑いタレント「森三中」のステージ、うたのおねえさんのコンサートなどがおこなわれました。また、徳島県の豊かな自然や歴史、伝統芸能や特産品といった魅力を全国の人に知ってもらうことを目的として、県内の各団体が出店をおこないました。

当県本部のブースでは、すだち大使の平石静香さんと中川かりんさん、園芸部の職員が、なると金時やスダチ、生しいたけ、柚子、ブロッコリーなどの青果物や県産飲料の「ザすだち」「すだち微炭酸」「ザ・キャロット」を販売した他、玄関前でなると金時の焼き芋を販売し、会場は県内外から訪れた大勢の来場者で賑わいました。



当県本部ブースで徳島県産青果物や飲料、焼き芋の販売を行いました



全農とくしまブースで青果物や県産飲料の販売を行うすだち大使

～徳島阿波おどり空港でおもてなし～

山形空港発チャーター便の 搭乗客に「徳島すだち」を配布

11月26日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長=坂本雅彦県本部長)は、徳島県と日本航空株式会社徳島支店の協力のもと、板野郡松茂町の徳島阿波おどり空港で、山形空港発チャーター便の搭乗客に「徳島すだち」をPRしました。

1階到着ロビーで、県のマスコットキャラクター・すだちくんが搭乗客83人を出迎え、徳島県と当県本部の職員が観光案内パンフレットと共にスダチ3個入り小袋やスダチ飲料を手渡しました。

搭乗客の方は、「いただいたスダチを食べるのが楽しみです。レシピも参考にします」と話されていました。



スダチ3個入り小袋やスダチ飲料などを手渡す園芸部職員



到着ロビーですだちくんや関係者が搭乗客をお出迎え

～特別栽培米コシヒカリ「乙姫米」をPR～

35周年記念スタンプラリーin美波町

11月23日、美波町と生活協同組合とくしま生協、当県本部米穀総合課は海部郡美波町「道の駅日和佐」で、特別栽培米コシヒカリ「乙姫米」35周年記念スタンプラリーin美波町を開催しました。

このイベントは、美波町で「乙姫米」栽培への取り組みが始まって35周年となる今年、乙姫米と美波町の良さを多くの人に認知してもらうことを目的として開催されたものです。

主催者を代表してとくしま生協の大久保秀幸理事長が開会のあいさつをおこない、ウォークスタンプラリーがスタートしました。

スタンプラリーには、事前に応募したとくしま生協組合員親子50組が参加し、道の駅日和佐前、薬王寺山門前、美波町役場前、大浜海岸前の4カ所に設けられたスタンプ場所をウォーキングで巡りました。参加者は道中の美しい景色を堪能しながら、1時間ほどで抽選場所の「道の駅日和佐」に次々と帰ってきました。

「道の駅日和佐」では美波町の影治信良町長や乙姫大使らが参加者を出迎え、全員で記念撮影をおこなったあと、4カ所のスタンプを押したカードと引き換えに抽選会が始まりました。乙姫米5kg、ウミガメマカロンなどの豪華景品が当たるといことで、参加者は真剣な表情でガラポン抽選機を回していました。「乙姫米」が当たった方は「とても嬉しいです」と喜んでいました。



大浜海岸前でスタンプを押す子供たち



スタンプラリー参加者



乙姫大使から「乙姫米」を受け取る参加者

マンスリーレポート

～良質な牛肉生産へ～

大阪の南港市場で牛枝肉の研究会・共励会を開催

11月、大阪市住之江区の大阪市中央卸売市場南港市場で、牛枝肉の研究会・共励会が開催されました。いずれも肥育農家の皆様の努力と、品種改良や飼養管理技術の成果が表れた、レベルの高い結果となりました。

また大会では、枝肉を購入いただいた方になると金時や阿波山田錦で醸造された日本酒などを贈り、徳島県産農産物をアピールしました。

◆第35回四国三郎牛枝肉研究会(11月10日)

黒毛和種の部(出品:10頭)では7頭がA5に格付けされる接戦のなかで、体形や肉色に優れた枝肉が最優秀賞に選ばれました。交雑種の部(出品:14頭)では、脂肪交雑に加えて枝肉重量やバラの厚さにも優れた枝肉が最優秀賞に選ばれました。

◆第61回徳島県肉牛共励会(11月17日)

黒毛和種の部(出品:11頭)で最優秀賞に選ばれたのは、脂肪交雑を表すBMSが最高評価の12であるだけでなく、枝肉重量が600kgもあり、ロース芯以外の周辺の肉にも細かく脂肪交雑が入る迫力のある枝肉でした。交雑種の部(出品:21頭)で最優秀賞に選ばれたのは、肉質面で交雑種ながらA5に格付けされ、肉量にも優れた堂々とした枝肉でした。

◆山口・徳島・岡山合同牛枝肉研究会(11月24日)

黒毛和種のみ、3県から12頭ずつ合計36頭が出品されました。徳島県からの出品牛も過半数の7頭がA5に格付けされる健闘を見せましたが、残念ながら入賞は叶いませんでした。



四国三郎牛枝肉研究会 黒毛和種の部最優秀賞



四国三郎牛枝肉研究会 交雑種の部最優秀賞



徳島県肉牛共励会 黒毛和種の部最優秀賞



徳島県肉牛共励会 交雑種の部最優秀賞



～徳島県産ナスで高校生が簡単朝食づくり～

とくしまブランドde簡単料理コンテスト2023

11月23日、四国大学短期大学部は、徳島市応神町の同大学で「とくしまブランドde簡単料理コンテスト2023」(協賛=全農徳島県本部、後援=徳島県/徳島県教育委員会)の最終審査をおこないました。

このコンテストは、全国の高校生を対象として高校生自身が「食べてみたい、作ってみたい」と思えるような、忙しい朝でも簡単に作れるワンプレート朝食レシピを募集したものです。野菜の総使用量が120g以上であることと、徳島県産の食材を使用して栄養バランスがとれていることに加え、指定された徳島県産ブランド食材を使用することがレシピづくりと調理の条件となります。

当県本部は、2016年よりこのコンテストに協賛し、参加賞として徳島県産米「あきさかり」とザサだち(飲料)を提供しています。また、今回指定食材となった「ナス」は徳島県農産物消費拡大協議会(会長=坂本雅彦県本部長)から提供されました。

最終審査当日は、応募総数71組の中から一次審査(書類審査)を通過した高校生7組(9人)が制限時間90分で実際に調理をおこない、徳島県産食材の使用量、栄養バランスの均衡、味や見た目などを基準に試食審査がおこなわれ、次のとおり受賞者が決定しました。(敬称略)

◇最優秀賞

「だれもがうなるナスプレート」

岡山県玉野市立玉野商工高等学校 3年

チーム愉快的仲間達(桑田望月・赤木獅優)

◇優秀賞

「なすたっぷり満腹メニュー」

徳島県立小松島西高等学校 3年

松本初菜

◇審査員特別賞

「栄養バランスたっぷり朝ごはん」

徳島県立城南高等学校 1年

小川月子



7組の高校生が制限時間内で調理



調理の様子



コンテスト参加者



最優秀賞



優秀賞



審査員特別賞

マンスリーレポート

～分量の維持と拡大を図る～

JA・中セキ セールスキングコンテスト2023表彰式

11月2日、全農中四国広域農機事業所徳島農機事務所は、徳島県JA会館会議室で「JA・中セキ セールスキングコンテスト2023」のスプリングウィナーズ賞およびスプリングキング賞の表彰式をおこないました。このコンテストは、JAグループと中セキグループが協同推進(期間:2023年4月～11月末)することで分量の維持と拡大を図る目的により実施されました。

受賞者を代表し、JAアグリあなん阿南農機SCの豊崎由和職員が「今後も農作業の効率化や省力化、労力の負担軽減をするための農業機械を組合員の皆様に提案し、喜んでいただけるよう業務に取り組んでいきたい」と熱く語りました。

同事務所は、引き続き株式会社中セキ中四国をはじめ農業機械関係各社と協力し、農機事業の拡大を図っていきます。

各賞の受賞者は次のとおりです。(敬称略)

【スプリングウィナーズ賞】

JAアグリあなん 阿南農機SC 竹原 正浩	JA徳島市 不動農機SC 川野 源
JAアグリあなん 阿南農機SC 阿部 正彦	JA徳島市 不動農機SC 宮地 伸夫
JAアグリあなん 阿南農機SC 豊崎 由和	JA板野郡 藍住農機SC 南川 幸男

【スプリングキング賞】

JAアグリあなん 阿南農機SC 豊崎 由和



あいさつを行う徳島農機事務所長所長



受賞者代表で抱負を述べた阿南農機SCの豊崎職員(右)

～商品知識を深めJA農機事業のサービス拡充につなげる～

トラクタ作業機研修会開催

11月2日、全農中四国広域農機事業所徳島農機事務所は、徳島県JA会館会議室および中央農機整備センター前で作業機研修会を開催しました。これは、商品知識を深め事業推進に役立ててもらうことを目的としたもので、JA農機担当職員をはじめ同事務所・農機一体運営拠点職員など35人が参加しました。

はじめに、株式会社アグリアタッチ研究所の下村敬章主任より、成型一体型ロータリー「ラクーネロータリー」の実機を用いた説明を受け、他社製品との仕様の違いや、調整・操作方法を確かめ、商品知識を深めました。この作業機は、他社製品に比べて安価に導入ができることに加え、ロータリーと成型機を一体としたことで、両パーツの脱着を不要とし、効率的に畝立て作業を実施することができます。

また、株式会社中セキ中四国の桐野耕二徳島営業部長からは、同社の新製品であり、HFRシリーズの後継機としてフルモデルチェンジしたコンバイン「FMシリーズ」の商品説明を受けました。

徳島農機事務所では、今後もこのような研修会を適時開催することで、農機担当者に最新技術や商品知識の習得を促し、JA農機事業のサービスの拡充を図ってまいります。



研修会の様子



ラクーネロータリーの説明を受ける参加者

～最新の機能や精度を確認～

JA徳島市で自動操舵システム実演会

11月27日、JA徳島市および徳島農機事務所は川内町内の圃場で、甘諸部会員など関係者32人参加のもと「自動操舵システムによる整形マルチ実演会」をおこないました。

圃場では、株式会社サセキ中四国の桐野耕二部長より後付けタイプの自動操舵システムの説明後、同システムを搭載したトラクターで畝立とマルチ張り作業を同時におこなう実演がありました。

カンショの畝立て作業は、薬剤の容量やマルチの状態などを確認すると同時に、隣畝との幅をぎりぎりに維持しながら畝の直進を保たなければならないため、作業者の負担が大きいことが課題でした。

今回実演した後付けタイプの自動操舵システムは、パワステ付きの多くのトラクターに取り付ける事ができ、従来品よりも価格も手頃で、誤差2～3cmと精度も高い特徴があります。

圃場での作業を見た部会員の方々は、自動操舵で隣接した畝の近くを直進している様子に期待以上の手ごたえを感じているようでした。

徳島農機事務所では、今後もJA・農家組合員の付託に応えるとともに、実演会の実施などを通じて次世代農業機械の紹介・提案に取り組んでいきます。



説明を行う株サセキ中四国桐野部長(右端)



作業の様子を確認する関係者

～オモト産地の子どもたちが生け方などを体験～

相生小学校でオモトの花育

11月21日、とくしまの花振興協会(会長=村上哲副本部長)とJAアグリあなは、那賀町立相生小学校で総合学習の一環として「オモト(万年青)花育」をおこないました。

那賀郡那賀町(旧・相生町)は、縁起の良い植物として引越し・長寿のお祝いや正月の花材などに重宝されるオモトの産地で、生産量・品質ともに全国一位を誇ります。このオモトを地元の子どもたちにもっと知ってほしい、触れてほしいという生産者の願いから、授業で花育の取り組みをおこなっており、今年で16回目を迎えました。

授業では、6年生14人の児童が華道家の兒玉知之氏の指導で生け方を体験し、楽しそうに作品を作り上げました。児童からは「心が落ち着いた」「また生け花をしたい」などの声が聞かれました。完成した作品は校内に飾られ児童らが鑑賞していました。

※花育(はないく)とは、花を教材に生命や個性について、子供などに考えてもらう活動です。



兒玉氏よりオモトの生け方を教わる児童



完成したオモトの生け花を鑑賞

マンスリーレポート

～技術を習得し生産者の営農支援へ～

令和5年度土壌診断技術向上研修会

11月7日、当県本部営農支援課は、JA徳島市北部営農経済センター会議室および同管内圃場で「令和5年度土壌診断技術向上研修会」を開催しました。

この研修会は、営農指導業務やTAC業務に携わり、土壌・肥料に関する基礎的な知識を有するJA職員を対象に、作物の生育と土壌の見方や圃場での土壌断面を確認する方法を学び、土壌診断の技術力を向上させる知識や手段の習得をおこなうのが目的です。

県内JAの営農指導員をはじめ農林水産総合技術センター、鳴門藍住農業支援センター、徳島県協同肥料株式会社、開発肥料株式会社、当県本部関係者など25人が出席しました。

講義は、開発肥料株式会社営業部技術顧問の甲谷潤氏より「土壌診断技術向上研修会」と題し、①作物育成と土壌の見方、②土壌診断処方箋の読み方の基本、③土壌断面調査方法、④簡易な処方箋作成について、座学と圃場での実習で説明を受けました。

甲谷講師は、土壌の色の違いで土壌特性を導き出せることや、地形と土壌分布の関係などについて参加者に質問を交えながら熱のこもった講義をおこないました。また、圃場での実習では、講師による土壌断面調査が実演された後、受講生が3班に分かれ調査用の穴を掘り、作土の厚さ・土色・土性・ち密度について土壌断面調査をおこないました。

参加者は土壌診断技術の習得により、土づくりや施肥のための資材提案を通じて、生産者との信頼関係の強化に役立てようと熱心に取り組んでいました。



甲谷技術顧問による講義の様子



圃場で土壌断面調査の指導を受ける受講生

～労力負担の軽減で持続可能な生産へ～

ドローンを活用したブロッコリーの黒すす病防除試験

11月24日、JA徳島市は、徳島県、当県本部協力のもと、同JA北部営農経済センター管内のブロッコリー圃場で「ドローンを活用したブロッコリーの黒すす病防除試験」を実施し、関係者など10人が参加しました。

JA徳島市では、特産の「ブロッコリー」の生産振興に取り組んでおり、栽培管理の中で労力負担の大きい農薬散布作業の省力化をはかることを目的に、ドローンを活用した黒すす病防除試験を実施しました。

この日の実証散布試験は、同JAブロッコリー統一部会山本克彦部会長の圃場(約20アール)で、ドローンが3メートル上空から農薬散布をおこない、手作業では約1時間かかるところ、約5分で散布が終了しました。

農薬散布作業は1ほ場、年に3回から4回おこなうため、栽培管理作業のなかでも負担がかかる作業となっています。

JA徳島市北部営農経済センター営農課の佐藤宏樹課長代理は「黒すす病を防除するためドローンによる防除を実施し、農家の省力化がはかれることで今後も高品質なブロッコリーの生産をおこなっていききたい」と、この取り組みに期待を寄せていました。



上空から農薬散布を行うドローン



散布状況の確認をする関係者

～徳島ブランドの農産物を知ってもらう～

令和5年度徳島県青伸会「若手研修会」

11月21日と22日の2日間、徳島県青伸会(会長=大阪中央青果株式会社佐藤慶一部長)は同会若手社員の育成を図るため、当県本部会議室および徳島県内での体験型実習を交えた産地研修会を開催しました。

この研修会は2年に一度若手社員の産地や知識の向上の為に開催されています。

今回は各社若手社員15人が参加し、21日にはJA大津松茂で、管内の概況説明やレンコン・カンショの栽培方法、出荷状況について説明を受けた後、圃場でレンコンの収穫体験、生産者の作業場で選別作業の見学をしました。

22日には当県本部会議室で事業概要や徳島県産青果物の販売状況、徳島ブランド推進機構の概要・活動について研修や意見交換をおこない、その後、JA里浦で、担当者より管内の概況説明を受け集出荷場を見学しました。また、圃場でダイコンの収穫体験や生産者の作業場での選別作業、甘藷用貯蔵庫の視察をおこないました。

参加した社員は「今回の研修で学んだことを今後の業務に活かし、徳島県産農産物の有利販売に努めたい」と話していました。

当県本部はこのような研修会を通じ、これから会社を担う若い関西圏の青果卸売会社の皆さんに、徳島県の農産物を今まで以上に知っていただき、徳島ブランドのファンを増やし販路拡大を目指してまいります。

(徳島県青伸会とは関西圏の主要青果物卸売会社で県産農産物の有利販売をおこなう17社で構成)



研修会の様子



レンコンの収穫を体験する社員

～「エコマーク商品」で料理講習会～

JA板野郡土成支所女性部へPR

11月14日、くらし支援部中四国エネルギー生活事業所徳島生活推進課は、板野郡土成町のJA板野郡調理室「のどか」で同JA土成支所女性部を対象に、エコマーク商品で料理講習会を実施し、商品紹介と利用拡大PRをおこないました。

当日は午前と午後に分かれ、女性部員計28人と同JA職員1人が参加し、厚生産業株式会社の宮崎宏之佐氏から説明を受け、エコマーク商品を使用したメニュー5品(炊き込みご飯、ヤンニョムチキン、にんじんシリシリ、みたらし団子、大根の漬物)を調理しました。

同女性部の牧本久代部長は「エコマーク品を使って、手軽に韓国料理やデザートまで調理することができました。家でもさっそく作って家族にも食べてもらいたいと思います」と話していました。

最後に、徳島生活推進課の佐藤友紀職員が「JAくらしの宅配便」について、商品の案内や注文方法を説明しました。

徳島生活推進課では、今後もこうした活動により、取扱い商品の認知度を高めるとともに商品の普及・利用拡大に努めてまいります。



調理を行う女性部員



厚生産業(株)宮崎講師から商品説明を受ける女性部員



「JAくらしの宅配便」について説明する徳島生活推進課佐藤職員

マンスリーレポート

～組合員や地域住民の笑顔があふれる～

県下JAで展示会や農業祭など多彩に開催

県下JAでは展示会や農業祭などのイベントが開催されています。

これらのイベントは、組合員や地域住民の方々とのおふれあいを通じ、絆を深める場として、土日を含む週末に多く開催されています。

11月、各JAの会場では、地元の特産品や加工品の紹介、特別価格での奉仕品の販売、展示即売会、各種イベント、景品プレゼントなどのお楽しみ企画が盛りだくさんとなり、大変多くの来場者で賑わいました。



◆JA東とくしまふれあいフェスティバル (農機フェア)

開催日：11/17・18
場 所：南部統括支所(坂野農機SC)

◆JA東とくしまJAフェア(購買フェア)

開催日：11/18・19
場 所：グリーン中央店/物流センター
・グリーン勝浦店

◆JA東とくしまJAフェア(直営産直フェア)

開催日：11/18・19
場 所：あいさい広場(メイン会場) /
よってね市/とれとれ市公方

◆JA板野郡創業祭

開催日：11/18・19
場 所：JAグリーンアグリ板野/
JAグリーンどなりマルシェ

◆JAかいふ農業祭

開催日：11/26
場 所：JAかいふ本所



料理研究家HITOMI先生が薦める、簡単スピーディー、そして楽しんで作れるレシピをご紹介します!



大根と生ハムのカルパッチョ



▼材料(2人分)

大根 ……………1/4本
生ハム …………… 50g
ベリーリーフ ……………適量

A { エキストラバージンオリーブ油……大2
麵つゆ(2倍濃縮)、レモン汁…各大1
塩、こしょう……………各少々

▼作り方



① 大根は5mm厚さの半月切りにし、ザルに取って塩(少々)で、しっかりもむ。



② 口大に切った生ハムと①にAを混ぜてから皿に盛り、ベリーリーフをのせる。

POINT

サラダなどで食べる場合は皮と身の間で薄く線が付いている所まで剥く。



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許:調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
◎賞:2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴:TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演/ラジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント:大阪ガスハグミュージアムにて鰻を使った爽やか料理講習会/大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師:兵庫イオンカルチャー(姫路、加古川、明石の3店舗)講師/神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西区民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など

うまいモノ絵日記



文：濱堀秀規 イラスト：ちっちゃん

その163

～JAの未来～

◆人生で大切なもの◆

一度定年退職してからであるが、JAからお手伝いに来て欲しいとの要望があり、短い契約期間であるが営農指導をすることになった。同級生は、ガンにかかり仕事をリタイヤして自宅療養中だったり、また別の友人は心臓が止まったり、脳の血管が詰まったり裂けたりしている。私も還暦を過ぎて、いつまで生きられるんだろうかと考える年齢になってしまった。また別の友人は、株で数億円できて、悠々自適にギターを初めて、今は相当上手になり、ユーチューブにアップして楽しんでいる。同級生同様、果たして人生で大切なモノって何だろうかと考える晩年に突入である。

企業(人)だけである」もう一つは、軒(のき)を賃(か)して母屋(おもや)を取(と)られる」である。

◆JAの未来◆

人間は食べ物がないと生きていけないので、JAがなくなることはないかと30年前にも先輩方からよく言われて、私たち農業技術者を奮い立たせてくれた言葉である。

今は、金融や共済(保険)が儲かるから、そちらに重点を置いているのはよくわかる。なぜなら、私自身も、給料などのフロー資産よりも、株や債権などのストックの金融商品が大きくなっているからである。しかし、JAの本業は、農畜産物を生産して、流通させて販売するという基本は営農である。果たして、JAは変化に対応して生き残るのだろうか。それとも、軒を賃して、母屋を取られる道に進んでいるのだろうか。

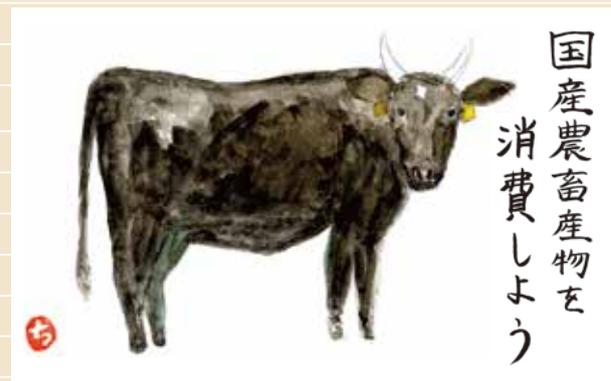
◆30年ひと昔◆

30年前はインターネットも個人が気安く使えるような状態ではなかったが技術革新により、便利な世の中になってきた。

考えてみると、18世紀後半にイギリスから始まった産業構造の変化とそれによる経済発展により、イギリスが世界の海運業などを牛耳ったと言われる産業革命。現在の産業革命はインターネットにより、世界の距離(時間)が近くなった。相対的に地球が小さくなったといわれる所以である。

◆生き残る企業は、変化に対応できた企業だけである◆

この産業革命による背景と同時に、思い出す2つの言葉がある。ひとつは「生き残るには、変化に対応できた



交通安全のお知らせ

年末年始の交通安全県民運動の実施について

年末年始は、日没時間と学生の下校時間帯や社会人の退社時間帯が重なること等から、例年、重大事故が増加する傾向にあります。交通ルールを遵守し、「ゆずる心と待つゆとり」を持った安全運転を心がけましょう。お互いを思いやる良い運転マナーの実践が交通事故防止につながります。

1 期間

令和5年12月10日(日)から
令和6年1月10日(水)まで



2 運動の重点

(1)高齢者の交通事故防止

ドライバーが運転する時間帯や場所を考えたり、体調不良時は運転を控えるなど自らの意思で安全な運転方法を選択することを「補償運転」といいます。

加齢に伴う身体機能の変化を把握し、交通事故に遭わないような行動をとりましょう。

(2)夕暮れ時と夜間の交通事故防止

夕暮れ時は早めのライト点灯を行い、対向車や先行車がない場合はハイビームを活用して歩行者や自転車の早期発見に努めましょう。

また、外出時は明るくても気づけば真っ暗! という経験はありませ

んか? 歩行者の方は、明るい服装や反射材用品等を効果的に活用し、自身の存在を相手に知らせましょう。

(3)飲酒運転等の悪質・危険な運転の根絶

飲酒運転事故は忘年会等の飲酒する機会が多くなる年末年始にかけて増加する傾向があります。

「飲酒運転を絶対にしない、させない」という環境作りに取り組みましょう。飲酒運転者以外にも「車両等の提供禁止」「酒類の提供禁止」「同乗の禁止」といった罰則があります。飲酒の際は周りの者も注意が必要です。

(4)自転車利用者のヘルメット着用と安全確保

平成30年から令和4年の間に県内で発生した自転車事故のうち、亡くなった方の約半数が頭部損傷によるものでした。

頭を守ることは命を守ることにつながります。

自転車を利用する全ての方はヘルメットを着用しましょう。



徳島県警察本部 交通企画課

営農コラム

出向く体制から見える営農指導について 営農支援課 技術主管 吉永 博明

現在、当県本部では「出向く体制」として、JA職員駐在者と協力し、各組合員へ直接訪問する体制を構築しています。本年度は9月末時点で約1,200件の訪問をおこない、各組合員から直接意見や抱える課題をヒアリングしています。組合員からは生産技術の指導や生産コストの増加に伴う所得の減少など、喫緊の課題として解決すべき内容に対し、多くの意見を頂戴しています。そういった課題に対して、まずは管内JAと課題を共有し、当県本部の専門部署との協議をおこない、組合員へ提案する方式を取っており、正確性とスピード感をもって対応しています。

営農技術面においては、個々の作物で生育ステージに合った管理技術の指導や栽培講習会を実施し、生産コスト面では国内未利用資源（堆肥）を活用した低コスト肥料の提案などをおこなっております。また、組合員への訪問を複数回おこなうことで、組合員側でも取り組みへの認知・理解度も上がり多くの相談をしていただけるようになるなど、一定の効果があると認識をしています。

今後も様々な青果物が出荷される時期となるにあたり、気象条件・病害虫などの要因により対応も変化するため、各JAと協力し専門的な技術・幅広い知識を活かした対応に努め、取り組み自体を拡大してまいります。

ii!! TAC Tとことん、A会って、Cコミュニケーション!!

『担い手を訪問して聴き取った情報をもとに、担い手農家の視点に立った事業提案をおこなうことにより、担い手が成果を得られた結果、JAグループとの信頼関係が結ばれるとともに、JAの事業にも結びつけていくこと』です。



中四国広域農機事業所徳島農機事務所

全拠点で労働災害ゼロとコンプライアンス遵守を目指し ～コンプライアンス推進研修会～

11月2日、全農中四国広域農機事業所徳島農機事務所は、徳島県JA会館会議室で同事務所および農機一体運営拠点職員25人出席のもと「農機事業一体運営コンプライアンス推進研修会」を開催しました。

令和5年度全農グループ「誓いの日」の取り組みに合わせ、11月を現金取扱リスク防止月間とし、職員一人一人が職場の現金取扱業務点検とコンプライアンス意識の向上に取り組むことを目的としています。

はじめに、耕種資材部横手啓次長から「11月1日は全農グループの『誓いの日』であり、11月はコンプライアンス取組強化月間です。理事長のメッセージでもありますが、特にモラルの低下とチェック機能の形骸化について危機感をいただいています。農機事業に当てはめながら視聴していただきたい」とあいさつがあり、野口栄理事長から

の「誓いの日」のメッセージ動画を視聴しました。

農機一体運営では1拠点の不祥事は全国の農機拠点の不祥事となり、組織の社会的信用を大きく失うだけでなく、自身や同僚・家族、組合員・取引先に大きな影響を与え、農機事業そのものの存続も危ぶまれることとなります。危機感をもって徳島農機事務所および農機一体運営拠点は不祥事を起こさない・許さない仕組みづくりに取り組んでまいります。



野口栄理事長の「誓いの日」のメッセージ動画を視聴する職員

～全農常務理事による職員講話～

令和5年度「職員研修会」

11月7日、当県本部は徳島県JA会館会議室にて、竹本尚史常務理事、桂栄一郎地区担当部長、当県本部および子会社の役職員(134人出席)による「令和5年度職員研修会」をおこないました。

はじめに、野口栄理事長からの「誓いの日」のメッセージ動画を視聴しました。

続いて坂本県本部長より令和5年度のコンプライアンス推進・リスク管理計画が上期は概ね計画どおり取り組んでいることなどの説明がありました。

竹本常務理事からは、令和4年度に実施された農水省条例検査や東京国税庁税務調査の結果についての講話をいただきました。常務は「われわれ全農にはガバナンス体制の構築が課題であり、組

織として健全で公平性のある理念を持ち、すべてのステークホルダーの信頼に応える姿勢を示すことが重要です。まずは職員の人間性と人権を尊重し、誰もが安心して働ける職場を築くことが必要です。職員一人一人が心に留めて行動してほしい」と述べ、本会が取り組むべき方向性や課題について情報の共有をはかりました。



講話を行う竹本常務理事

園芸部

産直市「とくしまマルシェ」出店

当県本部園芸部は、県内JAと協力し、徳島市東船場町のしんまちボードウォークで毎月最終日曜日に開催される産直市「とくしまマルシェ」に出店しています。

11月26日は、JA徳島市が出店し、カリフラワーやなると金時、レンコン、ブロッコリー、ハウレンソウ、花(ガーベラ)などを販売しました。

天ぷら(カリフラワー、なると金時、レンコン)の試食は「おいしい」と好評で、販売商品も「新鮮で安い」といった声が寄せられ、家族連れなどたくさんの買い物客で賑わいました。

お問い合わせは、園芸販売課(電話088-634-2514)まで。



家族連れなどたくさんの買い物客で賑わいました♪



<https://tokushima-marche.jp/>



総務課

全農徳島県本部OB会親睦研修旅行

全農徳島県本部OB会(会長=大西公宏)の会員30人は、11月29日～30日の2日間、奈良県への親睦研修旅行をおこないました。

29日の朝、観光バスで徳島県JA会館を出発した一行は、世界遺産である春日大社や法隆寺を見学し、古都奈良の歴史に触れました。その後、橿原市内のホテルに宿泊し、楽しくお酒を酌み交わして親睦を深めました。

2日目は、観光とゴルフの2組に分かれ、観光組は橿原神宮に参拝したのち、奈良県立橿原考古学

研究所や飛鳥寺、石舞台古墳と観光を楽しみました。また、ゴルフ組は花吉野カントリー倶楽部でプレーを満喫し、思い出に残る2日間となりました。



親睦研修旅行に参加したOBの皆さん

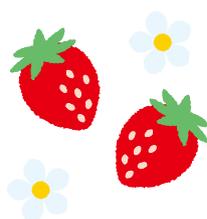
地域おこし協力隊「佐那のいちご塾生(第3期生)」の募集について (佐那河内村いちご栽培振興協議会)

徳島県名東郡の佐那河内村(さなごうちそん)では、同村を代表する農産物「さくらももいちご」の担い手確保と生産振興を推進し、ブランドを次世代に継承するため、一流の「さくらももいちご」生産者をめざす地域おこし協力隊「佐那のいちご塾生」を募集しています。

このたび、第3期生の募集を開始しています。詳細につきましては下記リンクからご確認ください。

【地域おこし協力隊】佐那のいちご塾生の募集について(佐那河内村HP)

→リンク先：<https://www.vill.sanagochi.lg.jp/docs/2021091600021/>





果樹の除草作業軽減、雑草防止に。

苗木・幼木用 **防草段ボールシート**
 KUSA BŌ BŌ
草帽防

除草作業時の巻き込み軽減に

一般的な防草シートは布・不織維布などの薄い素材のため、除草作業(刈払機、自走モア一等)時に巻込む不具合がありました。

地球にやさしい

古紙を利用した段ボールを使用しているため、環境に優しい素材です。

省力化・労力軽減

防草段ボールシートを使用することで株元にほとんど草がなく、除草作業の省力化・労力軽減につながります。

除草作業の目印に

目立つため、除草剤の散布や草刈りの際に目印となり作業がしやすく、同時に苗を傷めず守ります。

長年に渡る抑草効果

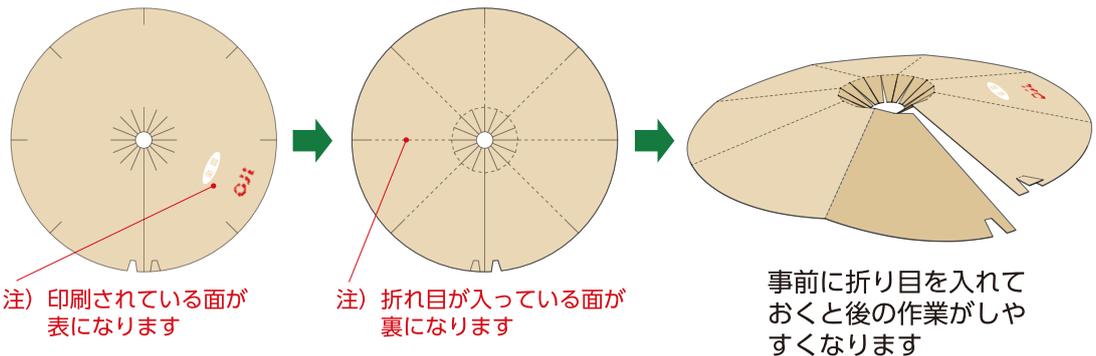
防草段ボールシートを設置した部分は草の生育を抑え種が落ちない為、長期間(約6か月程度)にわたり抑草効果が見込まれます。



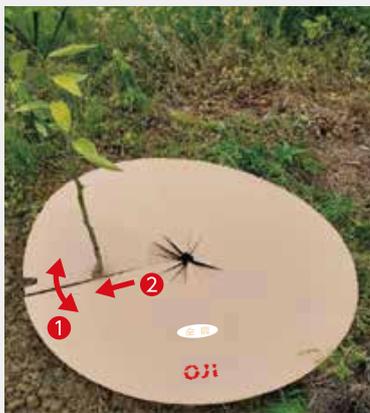
(使用例)

防草段ボールシート 取り扱い説明

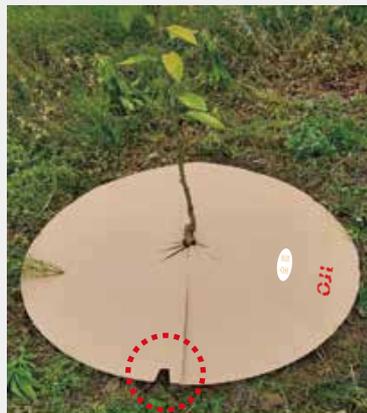
準備



設置手順



- ① スリット (切れ目) を広げ
- ② 防草段ボールシートをスライドさせて幹が中心にくるように合わせます



- ① 切鍵を下にして切れ込みと合せ
- ② 切れ込みを上重ね
- ③ 内側に折り込み
- ④ ロックします



飛散防止

使用状況により防草段ボールシートが風で飛ばされないようTペグ(プラスチック製)、杭または土寄せなどを行い、飛散防止、破れ等の対策が必要です。

※Tペグ、杭などは各自でご準備ください。



※処分：燃えるごみ

ラインナップ

R350
(直径35cm)

苗木用

定植時～3年生を目安に使用

R550
(直径55cm)

苗木から幼木用

定植後2～5年生を目安に使用

R800
(直径80cm)

幼木から成木用

定植後4～5年生からの使用

※上記は使用時期の目安です。
果樹の種類や品種、生育状況に応じてご使用ください。

お問い合わせ先：日本青果包装(株) TEL.0885-32-3577

JAタウン「新鮮大好き徳島」で販売中です。
<https://www.ja-town.com/shop/c/c7001/>

新鮮大好き徳島

検索

裏面のQRコードからもご確認いただけます。

Tokushima Flower Festival 2023

2会場で徳島県産のお花を展示

会場1 2023
12/19(火)~25(月)
道の駅くるくるなると
徳島市大津町備前島宇賀田の越338-1

会場2 2024
2/8(木)~14(水)
JR徳島駅
徳島市寺島本町西1丁目61

入場無料
とくしま花まつり

2024 1/27(土)・28(日)
10:00~16:00
徳島県立21世紀館
徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園内

来場者プレゼント 徳島花まつりの
採場者に花苗プレゼント!
両日先着100名様

イベントホール

- 第41回徳島県花き展示品評会
県内No.1の「花」を決めるコンテスト出品品を一室に展示
- 県産花きのフォトスポット

多目的活動室

- フラワーアレンジメントワークショップ
参加無料 事前予約 1日2回開催
お申し込み方法については徳島県公式WEBサイトをご確認ください

主催/とくしまの花振興協会
お問い合わせ先/徳島県みどり戦略推進課 TEL.088-621-2409 詳細はこちら→徳島県公式Webサイト



Instagram(@tokushima_flower_festival)にて情報発信中!



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
クックパッド



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋 になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は
無料です。送付先の氏名・住所変更や、
送付の停止につきましては、
JA全農とくしま企画管理課広報室
(電話 088-634-2462)
までご連絡ください。

